

第3章 事務部門等の活動実績

第1節 事務局

事務局長 望 月 敬 之
事務局次長 大 坂 公 亨

1. 財務企画室

【スタッフ】

財務企画室長 水 上 博 行
ほか室員 5名

財務企画室は、総合病院全体の予算・決算、前方連携業務ならびに計画・企画等に関する業務を所管しています。

(1) 予算・決算等

地方公営企業法ならびに滋賀県病院事業会計規程等の関係法令に基づき、予算、決算、経理、出納などの会計事務を行っています。

また、決算関係資料等の作成、月次収支シミュレーションの作成等、病院の経営状況の把握、共有を通じて厳しい経営環境の中、効率的な病院運営に取り組んでいます。

(2) 第五次滋賀県立病院中期計画の推進

第五次滋賀県立病院中期計画に基づき、ロジックモデルによる数値目標やアクションプランの達成に向けた病院各部門の取り組みの進捗管理を行いました。

また、病院機能評価においては、令和5年1月に更新審査で多くの項目で取り組みを評価され、認定(3rdG ver2.0)を取得しています。引き続き、令和8年度の次回更新審査に向けて、病院機能の改善、質の向上に取り組んでいます。

(3) 都道府県がん診療連携拠点病院としての取組

平成14年8月に県内で初めて「地域がん診療拠点病院」の指定を受け、平成21年2月には、厚生労働大臣から「都道府県がん診療連携拠点病院」の指定を受けました。

都道府県がん診療連携拠点病院は、高度専門医療の提供に加えて、地域がん診療連携拠点病院等への情報提供・診療支援の実施や、がん診療連携協議会の設置・運営、地域の拠点病院が行う相談支援・院内がん登録・がん医療に携わる医療従事者向け研修の調整など、本県のがん診療連携を推進していく役割を担っており、当室が事務局として院内外の調整等を行っています。

また、「がん診療連携拠点病院等の整備に関する指針」に基づき「緩和ケアセンター」を設置するなどして、平成27年3月31日には道府県がん診療連携拠点病院」の指定更新をされています。

平成31年度には、京都大学を中核病院とする「がんゲノム連携病院」の指定をうけ、今後拡大が見込まれるがんゲノム医療の提供体制充実に取り組むとともに、令和5年度に竣工した新放射線治療棟への最新の治療装置の導入や、化学療法の実施体制充実など、県民に最良のがん診療を提供できるよう図っています。

(4) 滋賀県がん診療連携協議会の運営

都道府県がん診療連携拠点病院には、「がん診療連携協議会」の設置・運営が指定要件として求められています。

滋賀県がん診療連携協議会は、がん診療連携拠点病院や

医療関係団体、県健康医療福祉部、がん患者団体等で構成され、下部組織として企画運営委員会、相談支援部会、緩和ケア推進部会、がん登録推進部会、地域連携部会、診療支援部会、研修推進部会を設置しています。

これら部会等では、滋賀県のがん医療に関する情報交換、がん相談支援の向上、緩和ケアの普及、がん登録データの分析・評価、地域連携クリニカルパスの整備・普及、診療支援の調整、医療従事者向け研修の計画調整等、がん治療の均てん化に向けた具体的展開に取り組んでいます。

当室は同協議会の事務局として、協議会全体の取組推進に係る各種調整、滋賀県がん医療フォーラムの開催等に取り組ましました。

(参考) 滋賀県がん診療連携協議会ホームページ
<https://www.pref.shiga.lg.jp/kensou/gan/gankyougikai/index.html>

(5) 滋賀県がん診療連携協議会の部会運営

①相談支援部会

- ・滋賀県内各がん相談支援センター等相談窓口の相談員の資質向上のための研修会の開催(令和5年度1回実施)
- ・「滋賀の療養情報ーがんになっても安心して暮らせるようにー[第11版]」の作成
- ・がん患者サロン開催(計68回、182名参加)
- ・がんのセカンドオピニオン窓口、提示体制一覧の広報
- ・がん相談後のアンケートの実施 等

②緩和ケア推進部会

- ・医師等を対象とした滋賀県緩和ケア研修会の開催
- ・看護師等を対象としたELNEC-J研修会の開催
- ・緩和ケアチーム研修会の開催
- ・緩和ケアをテーマにした講演会(世界ホスピス緩和ケアデー記念県民公開講座)の開催
- ・緩和ケア推進に係る意見交換 等

③企画運営委員会

- ・県がん診療連携協議会の開催
- ・リレー・フォー・ライフジャパン滋賀医科大学に出展
- ・県がん医療フォーラムの開催(さくら大ホール) 等

(6) 地域医療連携業務の推進(前方連携業務)

地域の医療機関へ積極的に訪問することで病診・病病連携を強化し、紹介率の向上や逆紹介の推進を図っています。

紹介受付での主な業務は、地域の医療機関からの診察や検査の申し込みをFAXにより受付し予約票を送信しています。予約をせず当日紹介状を持って来院された方のためには、紹介専用窓口を設け受付しています。

また、連携登録医満足度調査を実施し要望等に対応することで、地域の診療所等との信頼関係の強化を図り、地域から選ばれる病院となるよう取り組んでいます。

(7) 執行部会議の運営

病院の運営にかかる重要な事項について協議、決定するため、「執行部会議」を開催しています。当室が事務局として毎週開催し、課題となっている事項についての審議や、各部門、各委員会などで提案のあった事項、懸案となっている事項についての協議のほか、病院運営状況の報告等も行いました。

(8) 業務実績

【管内医療機関との連携と協力に係る基本協定締結】

地域における医療提供体制の充実を図り、地域住民の皆さんに将来に渡り安全・安心で質の高い医療を安定的に提供するため、相互の医療機能を発揮し、緊密に連携・協力を行うことを目的に病院間連携協定を締結しました。

- ・草津ハートセンター 令和3年(2021年)3月2日締結
(連携事項)
 - ① 患者の紹介・受け入れに関すること
 - ② 循環器疾患に関する救急に関すること
 - ③ 治療方法、薬剤や診療材料等に係る情報交換に関すること
 - ④ その他、連携に必要な取組みに関すること

- ・市立野洲病院 令和3年(2021年)3月11日締結、令和6年(2024年)4月1日改定
(連携事項)
 - ① 職員の派遣および医療資源の共同利用など診療内容の充実に関すること
 - ② 職員の資質向上のための研修の実施および交流に関すること
 - ③ 甲と乙の間における患者の円滑な転院等に関すること
 - ④ 薬剤や診療材料等に係る情報交換に関すること
 - ⑤ 病院の経営または整備もしくは改修に係る情報交換に関すること
 - ⑥ その他、地域医療構想の実現に関すること職員の派遣、医療資源の共同利用など診療の支援

- ・済生会守山市民病院 令和3年(2021年)7月1日締結
(連携事項)
 - ① 相互の医療機能および資源を活用した診療の連携に関すること
 - ② 職員の資質向上のための研修の協力に関すること
 - ③ その他、守山地域の医療の推進及び地域医療構想の実現に関すること

- ・日野記念病院 令和6年(2024年)1月29日締結
(連携事項)
 - ① 職員の派遣に関すること
 - ② 相互の医療機能および資源を活用した診療の連携に関すること
 - ③ 職員の資質向上のための研修の協力に関すること
 - ④ 薬剤や診療材料等に係る情報交換に関すること

【紹介・逆紹介率、連携登録医数】

紹介・逆紹介に係る患者数・率

	令和4年度	令和5年度
紹介患者数	11,475人	11,957人
紹介患者率	79.1%	83.8%
逆紹介患者数	11,081人	12,621人
逆紹介患者率	76.4%	88.5%

連携登録医

	令和4年度	令和5年度
連携登録医件数	289件	333件

2. 医療情報室

【スタッフ】

医療情報室長(兼) 北条 雅人
(本・脳神経外科長)
参事 横田 光明

ほか室員
システム 3名
診療情報 9名
がん登録 5名

◇システム

医療情報室システム担当では、病院統合医療情報システム、及び情報ネットワーク基盤の運用・保守管理を行っています。

1. 病院統合医療情報システムの運用・保守管理

院内で日々発生する病院統合医療情報システムに対する疑問や質問、また変更依頼やメンテナンスなどを、現場やシステムベンダ等と調整しながら対応を行っています。

また、システム関連機器が故障した場合、修理を行い、必要な場合は代替機を準備するなど、現場の運用に支障を来さないよう対応を行っています。

2. 情報ネットワーク基盤の運用・保守管理

情報ネットワーク基盤が、常に可用性が担保出来るよう、日々状況を監視しています。また、必要に応じてネットワーク機器の再起動を実施したり、現場の要望に応じてネットワーク機器のセグメント変更等を実施しています。

3. 滋賀県医療情報連携ネットワークとの連携

滋賀県医療情報連携ネットワーク(びわ湖あさがおネット)へのID取得依頼や管理、その他連携に関する対応を行っています。

4. 次期病院統合医療情報システムの導入対応

2025年1月の総合病院と小児保健医療センターの統合に合わせて稼働を予定している次期病院統合医療情報システムの導入対応を行なっています。統合後の診療業務がより安全安心で効率的に運用できるシステムとなるよう、入札にかかる要求仕様書の作成や落札者決定後の各システムベンダとの打ち合わせ、院内関係部署との運用検討ワーキンググループの開催などを順次おこなっています。

◇診療情報

医療情報室 診療情報では診療情報管理士が多く在籍しております。電子カルテシステムにおける記録の管理や診療情報の活用、およびDPC/PDPSに関する業務に取り組んでおります。

1. 診療録の適正管理

平成23年1月1日より電子カルテシステムが稼働。診療記録の標準化および適正な運用と管理を行うため、診療録管理要綱を適宜見直しています。

また、質的点検として、医師の記録に対し他科医師による同僚監査や、診療情報管理委員会のメンバーによる診療録監査を年1回実施、マニュアルを作成し結果をフィードバックすることで、診療録の質の向上に向けて取り組んでいます。量的点検としては、医療情報室で内容不備の確認等を行っています。作成された退院サマリは、電子カルテDWHや他の診療データとあわせて、年報を含めた疾病統計・分析など、診療情報の後利用をすることで有効活用しています。

2. DPC/PDPS

平成18年度よりDPC対象病院となりました。診療情報管理士によるDPCコーディングの確認のほか、様式1や厚生労働省提出用のデータの作成を行っています。

平成25年からDPC分析ソフトを導入し、作成したデータを活用しています。厚生労働省DPC公開データ等とあわせて分析を行い、DPC検討部会にて結果をフィードバックすることで、適切なコーディングの推進、また経営改善への提案なども行っています。

3. 診断書等作成補助業務

平成20年に診断書作成システムを導入。患者さんより申し込みのあった生命保険等の診断書・証明書や公費申請書、介護保険主治医意見書などについて診断書作成システムに登録。医師作成後に全件、確認業務等を行っています。

4. 医療の質の向上委員会事務局

当院は、2016年(平成28年)度から一般社団法人日本病院会のQIプロジェクトに参加しています。

日本病院会からフィードバックされた参加病院とのベンチマークの結果をもとに、自院の診療の質の現状を把握、また医療の質向上委員会および関連の部署・委員会等で、結果を分析し検討を実施していくことで、医療の質の向上をめざしています。

5. 医療機関ネットワーク事業に参画

消費者庁および独立行政法人国民生活センターが運営する医療機関ネットワーク事業に令和2年から参画。「消費生活上の事故」に関して、同種・類似の再発・拡大防止を図ることを目的とした事業で、当院に受診された、当該事業に該当する事例を日々抽出し、概要等を提供しています。

◇がん登録

1. 全国がん登録

平成25年12月に公布された「がん登録等の推進に関する法律」に基づき、平成28年1月から「全国がん登録」が始まり、すべての病院に届出が義務付けられました。

「全国がん登録」の円滑な運用に向けて、県内の医療機

関を対象に「全国がん登録実務研修会」を開催しました。
各医療機関からの届出が順調に進んでいます。
国立がん研究センターが実施する「全国罹患モニタリング集計」にもデータを提出しています。
また、過去の標準集計と併せて、がん罹患やがん死亡、5年生存率などをグラフ化し、県のホームページに公開しています。

2. 地域がん登録

滋賀県の事業である「地域がん登録」は、全国がん登録の開始に伴い、平成27年12月末までの診断症例の届出をもって終了しております。「がん登録等の推進に関する法律」第20条によりがん患者の予後情報を引き続き提供しています。

3. 院内がん登録

院内における「がん」の診断や初回治療に関する情報を、がん診療連携拠点病院の指針に基づき、標準登録項目の定義に従って専用システムに登録し、院内がん登録統計を作成しています。今年度は、2022年診断分1,586件を登録しました。この情報をもとに2001年～2022年の院内がん登録統計を作成し、ホームページに公開しています。

また、国立がん研究センターが実施する院内がん登録全国集計や、全国がんセンター協議会が実施する調査にもデータを提出しています。

4. がん診療連携協議会がん登録推進部会事務局

県内の拠点病院や支援病院における院内がん登録の推進と精度向上をはかるため、がん登録実務者向けの研修会を2回開催しました。

5. NCD登録

外科系医学会が実施している症例「NCD (National Clinical Database)」の手術症例、胃癌・食道癌登録の症例登録を年間2,385件行いました。

6. JND登録

脳神経外科領域の手術症例と、検査や読影そして内科治療の非手術症例の症例登録を年間258件行いました。

《業績》

(学会発表)

- 1) 柳香里、山根佳子、医療情報室がん登録担当活動報告、日本がん登録協議会第32回学術集会、令和5年6月8日～6月10日、青森県青森市

3. 総務課

【スタッフ】

総務課長 大橋 光広
総務係5名、人事給与係4名、施設用度係4名
(※会計年度任用職員等を除く)

総務課は、職員の人事、服務、給与、研修、福利厚生、旅費の支出、運営会議の開催、情報公開、ジュニアレジデントの確保、実習生の受け入れや、職員宿舍の管理、建物、設備、敷地の維持管理、修繕等を行う施設管理業務、医療機器や診療材料・医薬品などの物品の調達管理業務などを所管し、他の部署と連携し、コスト縮減を図りながら円滑な病院運営ができるよう取り組んでいます。

また、新型コロナウイルス感染症流行に伴う入館制限や、施設・設備の整備、関連物品の調達、新型コロナウイルス感染症防疫等作業手当の支給、医療従事者等へのワクチン接種などにも取り組みました。

◎主な業務内容

【運営会議の開催】

毎月第4金曜日に開催(12回/年)

内容:①前月運営会議議事録概要 ②総長報告事項 ③業務報告(月次損益等) ④委員会等審議結果報告 ⑤その他

【情報公開】

保有個人情報開示

条例に基づく公開請求件数 31件

法令に基づく公開請求件数 17件

【ジュニアレジデント確保の取り組み】

- ・WEB合同説明会への参加
- ・病院見学、WEB説明会開催

【実習生の受け入れ】

- ・57件 延べ763人

【職員宿舍】

(R6.3月末現在)

職員宿舍	部屋数	入居戸数	(内訳)	
			総合	小児
看護職員宿舍	120戸	73戸	63戸	10戸
医療技術員家族宿舍	15戸	7戸	4戸	3戸
医師単身宿舍	20戸	12戸	10戸	2戸

【施設・設備】

- ・新館A病棟他空調設備改修等工事
- ・新館A外壁等改修工事
- ・看護職員宿舍他屋根改修工事
- ・新館A他トイレ改修工事
- ・放射線治療棟新築工事

【治験・製造販売後調査】

- ・治験 2件(うち新規0件)
- ・製造販売後調査 68件(うち新規14件)

【SPDシステムによる物品管理】

・SPDシステム(Supply(供給) Processing(過程・工程)&Distribution(流通・配給))では、診療材料、医薬品、印刷物、消耗品(日用品・事務用品)の物品管理業務を行っています。

【医療機器等の整備】

病院統合医療情報システム、放射線治療システム、密封小線源治療システム、血管撮影装置、放射線治療計画用コンピューター断層撮影装置、移動型外科用X線イメージ装置、人工心肺装置、体外式結石破碎装置、プラズマ滅菌装置

4. 医事課

【スタッフ】

医事課長 長 家 正 之
職員 5名
※委託職員、非常勤職員、兼務職員除く

【業務内容】

医事課は、外来および入院患者の医療費の請求事務全般を取扱っています。提供された医療内容をカルテにより確認し、その診療報酬請求に係るルールや法的根拠に従って、適正な請求事務に努めています。

また、受付、案内、会計などの窓口で、患者さんやそのご家族に接し、サービス向上に努めています。

その他、医事課の主な業務は次のとおりです。

- ① 外来および入院に係る事務
初診・再診受付、各ブロック受付、検査受付、会計、入院案内、入院・退院手続き説明など
- ② 診療報酬請求事務
月単位の診療報酬請求明細書（レセプト）点検、返戻・減点査定事務処理、保険医療委員会およびレセプト検討会の開催
- ③ 施設基準の届出事務
- ④ 診療報酬請求情報を活用した患者数および診療収入に関する諸統計の作成
- ⑤ 未収金対策
未収金の発生予防、未収金の督促および回収等
- ⑥ 院内の委員会事務局
保険医療委員会
外来診療運営委員会
入院診療委員会
救急診療委員会
医師事務等軽減対策委員会
内視鏡室運営委員会

5. 地域医療推進室

【スタッフ】

室長（兼）	長谷川 浩史 （本・脳神経内科長）
参事（兼） ほか室員	長 家 正 之 17名 ※非常勤職員等を除く

◎主な業務内容

【がん相談支援センター業務の充実】

<スタッフ>

国立がん研究センター主催相談員指導者研修修了者 2名
国立がん研究センター主催相談員基礎研修（1）～（3）修了者 6名
国立がん研究センター主催相談員基礎研修（1）～（2）修了者 2名

がん診療連携拠点病院には、患者ご本人やご家族、地域住民、医療・福祉・保健従事者からのがんに関する様々な情報提供・相談支援を担う重要な機能の一つとしてがん相談支援センターの設置が義務づけられており、当院においては平成19年4月にがん相談支援センターを開設しました。

平成21年2月23日付けで滋賀県知事より推薦を受け、厚生労働省より都道府県がん診療連携拠点病院の指定を受けました。がん相談支援センターの相談支援・情報提供の資質向上を図っています。更に、県内の地域がん診療連携拠点病院、地域がん診療病院、滋賀県地域がん診療連携支援病院等に対し、臨床試験や希少がん等の情報提供、症例相談および診療支援、継続的かつ系統的な研修企画・実施を行っています。

平成27年度より、滋賀県内各がん相談支援センター等の活動におけるPDCAサイクルの確保として、がん相談後の利用者アンケート調査の統一実施、各がん相談支援センター等の取り組み状況の把握を統一実施しています。

平成28年度より治療と就労の両立を支援するために社会保険労務士やハローワーク草津就職支援ナビゲーター、平成30年1月より両立支援促進員による患者ご本人およびご家族向けの就労に関する相談支援を実施していました。コロナ禍のため一時相談支援を中止していましたが、令和4年度よりオンラインでの相談支援を再開しました。

また、令和3年度より守山市立図書館へのがん出張相談やがん教室も再開し、相談支援の充実に努めています。

相談支援センター内には、各がん種のガイドライン、図書やパンフレットの設置、ウィッグ等アピアランスケア情報の充実等のがん情報コーナーの充実を図り、相談支援・情報提供を行っています。

<具体的な業務>

- ・がんに関する一般的な情報提供・相談支援
- ・地域の医療機関等に関する情報収集、提供
- ・セカンドオピニオン外来に関する相談
- ・がん患者および家族等の療養上の相談
- ・がん教室「まなびや」の開催
- ・がん相談支援センターの広報・周知活動の一環としてリレーフォーライフジャパン滋賀医大等院外・院内のイベントへ参加・協力
- ・緩和ケアセンターと連携し緩和ケアに関する高次の

相談支援の実施

- ・がん患者サロン「笑顔」「こころ」の開催協力

【医療福祉相談業務】

患者、家族に対する相談業務は多岐にわたっており、主なものとしては、転院や退院後の悩み、医療費等の経済的問題、介護・福祉制度の仕組みなどの相談に医療ソーシャルワーカー等が対応しています。

<具体的な業務>

- ・医療、福祉、介護保険制度等の相談および関係機関との連絡調整
- ・公費負担医療費の相談
- ・難病、身体障害者手帳（福祉医療）、自立支援医療（更生医療）等の事務
- ・医療費（高額療養費）、生活保護費等の経済的問題の相談
- ・転院、福祉施設への入所相談

【入退院支援の充実】

入院患者が安心して退院後の在宅生活や、在宅医療・介護を継続できるように、院内各科や地域の医療機関、介護関係施設、訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所などと連携・調整を行っています。

また、退院後の生活を見据えた入院生活が送れるように、入院支援センターでは入院前より面談を行っています。

医療・福祉相談

	令和4年度	令和5年度
医療福祉相談件数	4,588件	5,528件

がん相談（心理相談を含む。）

	令和4年度	令和5年度
がん相談件数	2,549件	3,244件

セカンドオピニオン

	令和4年度	令和5年度
セカンドオピニオン件数	23件	31件

入退院支援

令和4年度			令和5年度		
入退院支援加算	加算 I	3,549件	入退院支援加算	加算 I	3,803件
	入院時支援加算	1,170件		入院時支援加算	1,132件
	地域連携診療計画加算	38件		地域連携診療計画加算	50件
	退院時共同指導料 II	43件		退院時共同指導料 II	50件
	介護支援等連携指導料	181件		介護支援等連携指導料	194件

第2節 医療安全管理室・感染管理室

1. 医療安全管理室

【スタッフ】

室長（本・心臓血管外科部長）	勝山和彦
主幹（医療安全管理者）	丹野和美
薬剤師（本・薬剤部副部長）	前田大史郎
主査（本・看護部主査）	野村康子
看護師（医療安全管理室）	安居千鶴子

【実績等】

医療安全対策について、医療における安全を確保し、医療に対する信頼を得るため、職員の医療安全に対する意識の向上と医療事故の未然防止に努めています。

◎令和5年度の活動内容

- 医療安全委員会開催：月1回 第3木曜日（全12回）
- 医療安全カンファレンス（医療安全小委員会）：週1回 火曜日（全38回）
- 医療安全管理者ラウンド：12回/月以上
- 医療安全推進者ラウンド：週1回 火曜日
- 清掃業務検討・ラウンド：月1回
- 産業医巡視（職場環境ラウンド）：月1回
- 医療安全推進チーム会開催：隔月1回第4木曜日
- 医療安全推進者班活動（4班）
- 医療安全推進者研修：3回開催
- 全職員対象医療安全研修：年2回企画・開催
- 医療安全推進週間行事：ポスター掲示
「正しい患者確認」動画YouTube配信
- オープンホスピタル催し：医療安全カルタ体験
「正しい患者確認」動画の放映
- 医療安全地域連携病院相互チェック
- 情報誌発行：情報誌「ANZEN」毎月発行（全12回）
- 医療安全に関する各種マニュアルの見直し
- ポケットマニュアル（緑）の製本編集まとめ・更新
- インシデント・アクシデントレポート：インシデント情報収集、背景要因分析、改善策立案、評価
- 外部・内部の医療安全情報の周知
「お知らせ」配信・配布・周知確認
「医療事故ニュース」配信・配布
「医療事故の再発防止に向けた提言」配信・配布
ホームページ更新
- 報告書確認（画像診断報告書・病理診断報告書）
カルテ確認
既読依頼メール送信：50件/月

◎令和5年度の主な取り組み

- 医療安全推進チーム会議
各所属の医療安全推進者で構成し医療安全活動実施
 1. レポート班
 2. 広報班
 3. 薬剤関連班
 4. 研修班
- 医療安全職員研修
 1. 第1回医療安全講演会
日時：令和5年10月6日（金）16：30～17：15

録画配信：令和5年10月10日～10月27日
演題：「医療の質・安全に影響する要因をSafety-IIの視点で調整する」
講師：伊藤 英樹 先生
広島大学病院医療安全管理部教授
対象：全職員（委託業者含む）1336名
受講率：100%

2. 第2回医療安全講習会

録画配信：令和6年2月16日（金）～
令和6年3月1日（金）

演題：「患者安全の基本」
「安全文化の醸成」

講師：松村 由美 先生
京都大学医学部附属病院
医療安全管理部教授

対象：全職員（委託業者含む）1320名
受講率：100%

○医療安全推進者研修

1. 医療安全推進者講義（7/27・9/28・11/30）

講義：医療安全管理者・チーム員講演と動画視聴
「基礎から学ぶ医療安全」
「KYT」班での演習
「インシデント分析について」
「抑制帯ミトンの正しい使用方法」
「所属でのKYT勧め方」
「多職種で取り組む医療安全」

ねらい：

当院の医療安全について知識向上、周知
医療安全推進チーム員の交流

○医療安全推進週間

1. 医療安全に関する動画作成、配信

テーマ：正しい患者確認
対象：職員・患者・一般人

日時：令和5年11月19日～11月25日

内容：動画を作成し、総合病院YouTubeチャンネルで
公開・放映。視聴回数を確認

○院内ラウンド

1. 医療安全管理者ラウンド
2. 医療安全推進者ラウンド
3. 環境ラウンド
4. 転倒・転落ラウンド
5. 患者誤認防止ラウンド

○医療安全地域連携相互ラウンド：

メール・WEB交流と相互チェック訪問
市立野洲病院、高島市民病院、
小児保健医療センター、マキノ病院

○医療安全講義 講師

1. 新規採用者研修
演題：医療安全
日時：令和5年4月5日 60分
講師：勝山医療安全管理室室長
対象：新規採用者

2. 3病院看護職員医療安全講義
演題：医療安全各論
日時：令和5年4月20日 90分
講師：県立3病院医療安全管理者
(丹野・高木・林)
対象：3病院新規採用看護師、計30名
3. 滋賀県立大学 統合実習
演題：当院の医療安全
日時：令和5年7月4日 45分
講師：丹野 医療安全管理者
対象：人間看護学部4回生39名
4. 滋賀県総合保健専門学校
講義：「医療安全」
日時：令和5年10月18日～毎水曜日90分6回
講師：丹野 医療安全管理者
対象：看護学科2年生63名

○インシデントレポートの業務改善および取り組み

1. 提出された全てのレポートは、医療安全小委員会にて検討、対応レベルを決定。改善策の検討、対応策に応じた実施・評価を行う
2. 多職種間にわたるインシデントについては、関連部署にレポートの転送を行い、インシデントの内容の共有を図り各所属で分析、対策立案を実施
3. 周知が必要な内容については、医療安全部門または、各部門と協同し「お知らせ」を院内に発行、医療安全情報誌にも掲載して周知している

医療安全のために改善・構築した主な内容

新規事項：

薬剤

- ・オフエブカプセルの保存検討、病棟での保管変更。
- ・ベクルリーのミキシング方法の再周知。
- ・研修医の抗がん剤処方チェック体制。
- ・サリドマイド薬の空ヒート取り扱いの周知。
- ・筋弛緩剤の管理について対策検討、マニュアル改定内容検討。
- ・KCLの投与方法の再周知。
- ・当該科持参薬の使用廃止の再周知。
- ・薬剤投与時の確認事項の遵守、注意喚起。
- ・抗菌薬禁忌情報がある患者への抗菌薬投与対応について再周知。
- ・ネオシネジン・ロクロニウムの薬剤ラベル類似について検討、製薬会社の対策確認。

転倒転落

- ・AB棟の段差による廊下スロープでの転倒転落防止対策、注意表示の設置を総務課に依頼。
- ・転倒転落による障害を最小限にする対策、衝撃吸収マット使用の促進。
- ・電話ボックスでの転倒時の呼び出しブザー設置。

ドレーン・チューブ類管理

- ・静脈ラインの三方活栓排除の確認、指導、再周知

検査

- ・病理検査オーダー手順の周知について診療科に指導。
- ・酸性蓄尿ボトルの運用検討、改善指導。
- ・放射線検査をうける血糖測定器リブレ装着中の患者対応について再周知。
- ・電話呼び出し時の患者確認について、指導。
- ・休日の血液培養検査結果報告の確認について検討。

治療処置

- ・説明・同意書の改善対策検討
- ・説明・同意書の改善について京都大学医学部附属病院医療安全管理部との医療安全共同事業への加入の検討、執行部会議への提案。
- ・合併症のICについて診療科に指導。
- ・胸腔穿刺事例公表後の対策実施確認。
- ・手術前日処置剃毛について感染管理室に改善依頼。
- ・外来治療開始前の患者安全確認の徹底の指導。
- ・手術部への患者IDカードの持ち込み廃止。
- ・Jrレジデントの麻酔科研修時の体制の確認、指導。
- ・医療材料の再使用状況、シングルユース材料の再利用禁止の徹底、再周知。
- ・切除臓器の体内除去確認について手術部に指導。

療養上の世話

- ・独居や遠距離自宅以外の離院患者の帰院方法の検討、執行部会議に提案。
- ・配茶について再確認、HCUのやかん廃止。

医療機器

- ・医療安全情報よりシリンジポンプの単位の選択間違いについて院内現状確認。

輸血

- ・輸血ポンプについて検討。導入しない現状確認。

指示

- ・救急外来に院内統一の低血糖指示を再周知。
- ・麻酔科指示を手術前日には指示うけすることを指導。
- ・ノルアドレナリン投与指示のローカルルール廃止の指導。

その他

- ・クリーニング品の注射針混入について再発防止対策検討。
- ・他患者の書類を渡したことによる他患者の個人情報漏洩について対策検討。
- ・個人情報漏洩の院内規定について執行部会議に提案。
- ・新ポケットマニュアル運用検討、様式の検討。
- ・患者誤認に関する調査の実施報告、今後の対策周知。
- ・医療安全講演の受講後の感想からスタッフ指導、全職員受講必須を周知。
- ・緊急入院時にリストバンド装着の指導。
- ・手術部門の駆虫について検討、総務に依頼。
- ・血液曝露報告様式が複数ある事の集約を指導。
- ・患者影響レベル5の事例検討。

- ・死亡事例のすみやかな確認について検討。

継続事項：

- ・アクシデント報告に対するヒアリング
- ・医療安全週間、啓蒙活動：標語募集、ポスター掲示
- ・患者確認の啓発：医療安全管理室からのお知らせ・ANZEN情報の配信・所属指導
- ・医療安全地域連携病院加算における相互ラウンド
- ・医療安全推進者と週1回院内ラウンドし、気づきをフィードバック 5S活動の推進・転倒転落対策確認
- ・情報の提供：医療事故の再発防止に向けた提言・医療安全情報配信
- ・転倒転落危険予知ラウンドとして産業医ラウンドに参加

2. 感染管理室

【スタッフ】

室長(兼)	大江 秀典 (本・外科部長)
主査(兼)	中川 祐介
主任看護師(感染管理者)	西田 和輝
主任看護師	渡邊 梨加

【実績等】

感染管理室は、患者および医療従事者を感染から守ることを目的に活動しています。また、医療従事者の感染防止に対する意識・知識の向上に努めています。

◎令和5年度の活動概要

- 各種委員会の事務局
- サーベイランス
- 定期的な院内ラウンド
- 感染対策に関する院内外教育
- 院内感染防止対策マニュアルの改訂
- 感染症診療・対策に関するコンサルテーション
- 職業感染防止対策
- 廃棄物・ファシリティーマネジメント
- 感染管理支援システムの導入
- その他

◎令和5年度の主な取り組み

○各種会議の事務局

- 院内感染防止対策委員会：12回開催
- ICT：チーム会議 46回開催
- AST：チーム会議 46回開催
- ICP：会議 11回開催

○感染対策向上加算

- 加算1：市立野洲病院、滋賀県立小児保健医療センターと連携
相互ラウンド及びカンファレンス：2回開催
合同カンファレンス：4回開催
- 加算3：生田病院と連携
合同カンファレンス：4回開催

○外来感染対策向上加算

- 守山・野洲医師会開業医(26施設 ※)と連携
(※ 連携強化加算は 15施設のみ)
合同カンファレンス：2回開催

○指導強化加算

- 医療法人さくら会 銀座通りクリニック内科・呼吸器内科、医療法人社団 真真会 野村内科医院と連携
院内ラウンド：2回開催

○マニュアルの改訂

- 院内感染防止対策マニュアル(Ver. 5)
令和5年6月改訂・削除・追加
- 抗菌薬適正使用マニュアル(Ver. 3)
令和6年3月改訂・追加

○職業感染防止対策

- 職員の感染症発生状況の把握と対応
- 針刺し・切創/血液・体液曝露事象の状況調査、受傷者への対応、対策の指導
- 針刺し・切創/血液・体液曝露事象の事例共有
- 安全機材の導入と使用方法の周知活動
- 個人防護用具の適正使用推進活動
- HBVワクチン接種の推進
- 小児ウイルス疾患抗体価検査とワクチン接種の実施に向けた作業
- 院内発生の結核接触者健診の実施
- 結核感染対策の強化、発生時の接触者健診
職員結核健診陽性者の呼吸器内科受診調整

○サーベイランス

- 全入院サーベイランス
- 集中治療部門サーベイランス
- 尿道留置カテーテル関連尿路感染(CAUTI)サーベイランス
- 中心静脈カテーテル関連血流感染(CLABSI)サーベイランス
- 手指衛生剤使用量モニタリング
- 手指衛生直接観察
- ケア改善のためのプロセスサーベイランス

○院内感染対策ラウンド

- 病棟や外来、検査室などのラウンドを行い、対策の実施状況確認と指導

○その他

- 薬剤耐性菌等アウトブレイクの対応と調査
水痘：令和5年6月 5B病棟
疥癬：令和5年8月 8B病棟
MBL：令和5年8月 6B病棟
ESBL：令和5年5月 8B病棟、6月 6B病棟
- 病院内外からのコンサルテーション対応：145件
- 病院内外への情報提供とインフォメーションの発行〔患者向け1回、職員向け18回〕
- 感染防止に関する器材の検討と導入
- 南部地域感染症予防連絡会への参加

○院内教育

- 新任職員研修(全職員対象：感染管理室長、看護師・レジデント対象：感染管理者)

○新型コロナウイルス対応

- 新型コロナウイルス感染症対策本部会議 3回開催
- 病棟で発生したクラスター疑い対応と調査
令和5年8月 5B, 8B, 5A病棟、
令和6年1月 7B病棟、3月 5B, 7A病棟

第3節 教育研修センター

教育研修センター

【スタッフ】

教育研修センター長 小 菅 邦 彦
(兼・循環器内科主任部長)
レジデントセンター長 松 村 和 宜
(本・消化器内科科長)
メディカルスタッフセンター長 辻 森 弘 容
(本・緩和ケアセンター副センター長心得)
地域支援研修センター長 長 谷 川 浩 史
(本・脳神経内科科長)

ほか、職員 2名
事務局 総務課

【主な業務内容】

教育研修センターは平成26年度に設立いたしました。教育研修センターの中にはレジデントセンター、メディカルスタッフセンター、地域医療支援センターがあります。

主な業務内容は次のとおりです。

1. 職員、医療系の学生、地域の医療職の研修、患者さんやご家族への啓発に関すること
2. 研修のスケジュールの調整に関すること
3. 研修の実務に関すること
4. 教育研修センターの整備と管理
5. 教育研修センターのシミュレーターの整備と管理

【令和5年度の活動内容】

月1回各センター長と協議し、情報交換を行っています。

○第7回院内ファシリテーター養成研修

開催にあたり、元京大病院総合臨床教育・研修センターの内藤知佐子先生に監修と指導をいただいております。

3講義1コースとし、形式は講義と演習を織り交ぜて行います。各回において、前年度修了者がファシリテーターとして参加します。令和5年度の修了者は12名でした。

開催日時と内容は以下の通りです。

・第1回

日時：8月25日（金）13:00～16:00

内容：アイスブレイク、ファシリテーターとは、指導のコツ、昨年度修了生の実践の報告

・第2回

日時：11月25日（金）13:00～16:00

内容：さくスキルとホワイトボードミーティング、互いの職種と価値観、ファシリテーターとリーダーシップ

・第3回

日時：2月16日（金）13:00～16:00

内容：デザインする力、チームの対立、受講生の実践の事例検討、内藤先生の総合レクチュア、足立総長による修了書授与式

参加職種：医師、看護師、診療放射線技師、管理栄養士、臨床検査技師、事務など多職種

平成29年度からの通算修了者数：75名

○院内CPC、臨床検討会の開催

臨床検討会（4回開催）

- ・6月28日 参加人数：37名
「病棟で急変した嘔吐症の一例」
- ・7月26日 参加人数：20名
「加速型高血圧と関節痛を主症状とした診断に苦しめたANCA関連血管炎の症例」
- ・12月27日 参加人数：25名
「社会復帰したマラソン中の心肺停止の一例」
- ・2月28日 参加人数：24名
「関節リウマチの診療について」
「20分で膠原病診療」

CPC（5回開催）

- ・5月24日 参加人数：32名
「大動脈解離で入院中に肺炎を合併し死亡した一例」
- ・9月27日 参加人数：30名
「慢性下痢による低栄養状態から敗血症性ショックをきたした一例」
- ・11月29日 参加人数：34名
「抗生剤不応の呼吸不全により死亡した関節リウマチ患者の一例」
- ・1月24日 参加人数：27名
「AML経過中に急変し死亡した一例」
- ・3月27日 参加人数：25名
「救急外来を受診した両側肺動脈塞栓症」

【その他】

- ・教育研修センター実習室の整備
- ・遠隔WEBシステムZoomの導入
- ・院内講演会、研修会のYouTube活用
- ・教育研修センターYoutubeアーカイブ作成
- ・当院ホームページおよびSNS等での情報公開
- ・当院医師の保有資格のデータベースの整備
- ・当院職員の救急・災害関係の資格のデータベースの整備
- ・新年度採用転入職員のオリエンテーションの調整
- ・第12回日本救急医学会認定ICLSコースの主催
- ・第4回JMECC(内科救急コース)院内開催
- ・動画マニュアル作成システムのtebikiの導入

1. レジデントセンター

【スタッフ】

センター長 松村和宜
事務局 総務課

【主な業務内容】

ジュニアレジデントの医師に対する教育は、院内全体の知恵を結集して行っており、実りのあるものとなるようにすべくその調整・支援に当たっています。

主な業務内容は次のとおりです。

1. 臨床研修の支援に関すること。
2. 臨床研修のスケジュールの調整に関すること。
3. 臨床研修プログラム、研修医手帳の改訂に関すること。
4. ジュニアレジデント（医科および歯科）の募集採用に関すること。
5. その他臨床研修に関すること。

【令和5年度の活動内容】

臨床研修の支援として、研修医の成績評価の管理、臨床研修プログラム改訂および募集採用等、臨床研修に関する事務を行いました。

また、企業、団体等主催の病院説明会に参加し、当院の初期研修プログラムへの募集活動を行いました。説明会では当院の指導医・研修医から直接学生に説明し、当院における初期研修の特長を積極的に広報しました。

（病院説明会への参加状況）

- ・第1回京大病院レジビナー2023
令和5年5月13日（土）
- ・レジナビFairオンライン滋賀県2023
令和5年6月10日（土）
- ・第2回京大病院レジビナー2023
令和5年6月17日（土）
- ・民間医局レジナビFair2023 大阪
令和5年7月2日（日）
- ・滋賀県地域医療フォーラム病院見学バスツアー
令和6年1月11日（木）
- ・マイナビオンライン説明会（関西エリア特集）
令和6年1月16日（火）
- ・近畿厚生局臨床研修病院説明会
令和6年2月24日（土）
- ・滋賀県地域医療フォーラムonline2023
令和6年3月9日（土）

また、当院に関心のある学生に当院の活動状況や就職後の研修内容について理解を深めてもらうため、病院見学の受け入れ、個別WEB説明会を随時行いました。

【レジデントの状況】

当院基幹病院として採用レジデント

- 医科
 - ・2年次ジュニアレジデント→初期研修修了 9名
 - ・1年次ジュニアレジデント 10名
- 歯科
 - ・1年次ジュニアレジデント→臨床研修修了 1名

【ジュニアレジデント出身大学】

大学名	R5	R4	R3	R2
滋賀医科大	6	3	2	3
京都大学	2		3	
大阪医科薬科大学	1			
岩手医科大学	1			
福井大学		3		
浜松医科大学		1		
金沢医科大学		1		
山梨大学		1		
信州大学		1		
金沢大学			2	1
北海道大学			1	
三重大学				1
近畿大学				1
新潟大学				1
東京大学				1
合計	10	10	8	8

【初期研修修了後の進路】

修了年度 修了人数	当院 専攻医	京大 専攻医	滋賀医大 専攻医	他大学 専攻医	他病院 専攻医	その他
R5年度 9名	4名 (内科系3名 外科系1名)	2名	1名	1名	1名 (県内0名)	0名
R4年度 8名	1名 (内科系1名)	4名	0名	0名	1名 (県内0名)	2名
R3年度 8名	2名 (内科系2名)	2名	2名	0名	2名 (県内2名)	0名
R2年度 8名	2名 (内科系1名 耳鼻科1名)	0名	2名	1名	3名 (県内1名)	0名
R1年度 6名	2名 (内科系2名)	3名	0名	0名	1名 (県内1名)	0名

2. メディカルスタッフセンター

【スタッフ】

センター長 辻 森 弘 容

対象：滋賀県立総合病院と小児保健医療センター職員

時間：17:30～18:30

場所：新館4階講堂

形式：講義と演習

【主な業務内容】

教育研修センターの中には院内組織としてレジデントセンター、地域医療支援センターとメディカルスタッフセンターがあります。メディカルスタッフセンターは医師以外の医療職の教育・研修の調整・支援のため2017年度より創設され、今年度で7年目となりました。

主な業務内容は次のとおりです。

1. メディカルスタッフ研修の支援に関すること。
2. メディカルスタッフ研修のスケジュールの調整に関すること。
3. そのメディカルスタッフ研修に関すること。

今後も、教育研修センター内の情報共有を密に行ない、メディカルスタッフジャンプアップセミナー等を通してメディカルスタッフからの情報発信を基に多職種チーム医療の基盤作りを継続することが課題です。

【令和5年度の活動内容】

月1回の教育研修センター会議を通して教育センター内の情報交換を行い、本センターとして下記の事業を行いました。

1. 教育研修センター事業の支援：
「院内ファシリテーター養成研修」の企画運営
(教育研修センター欄参照)
2. メディカルスタッフジャンプアップセミナーは2018年度より開催され、今年度で6年目となりました。
上記、院内ファシリテーター研修等の修了生を中心に本セミナーファシリテーター(講師)を選定しました。
2022年度から、参加対象を院内職員以外に小児保健医療センターにも広げ、ハイブリット方式で開催した。
セミナー後は、教育研修センターと連携し講義動画を保存し、職員が希望時学習に活用できるようにしている。
セミナーの、開催日時とテーマ、講師(ファシリテーター)は以下のとおり。

日時	ファシリテーター	内容 (参加者数) 《動画視聴回数》
第22回 2023年 7月5日 (水)	川本 潔 (リハビリテーション科:作業療法士)	患者安全と介助者の腰痛 予防対策を含む移乗動作 について ～スライディングボード 含む福祉用具を用いた実 技研修～ (21名) 《50回》
第23回 2023年 11月14日 (火)	岩崎 香織 (臨床検査部: 臨床検査技師)	微生物検査から感染対策 へのアプローチ (25名) 《68回》
第24回 2024年 2月6日 (火)	藤川 美月 (看護部:看護 師)	今知っておきたい急変時 初期対応 (29名) 《96回》

3. 地域支援研修センター

【スタッフ】

センター長 長谷川 浩史
事務局 総務課

【設置目的】

在宅療養の充実、将来の在宅看取りの拡大を視野に、一人の患者に関わりサポートする種々の職種が出現し、医療体制づくりが行われつつあります。

一方で、多職種間の相互理解・情報共有は十分とは言えないのが現状です。そのためには、一方向的になりがちな書類のやりとりだけでなく、リアルタイムで課題を共有し、フィードバックされることが必要とされており、多職種間の連携強化は重要な課題となっています。現在、地域医師会、地域包括センター、病院などにより独自に事例検討会を通して多職種連携に向けての様々な取組みが行われているところです。

当院でも、医師を含めた多職種がこれらの検討会に参加し、相互理解、多職種連携に努めています。特に現在のレジデント研修において、地域医療の研修、理解は必須となっており、今後超高齢化の進む我が国の医療を担っていく若手医師においては、早期より理解を深めておくことが重要と考えています。

病院内外で開催される守山地区での以下の検討会へ参加し、地域多職種との連携を深め、またレジデント研修の一助を担っております。

残念ながら、新型コロナウイルス感染症の拡大により、多くの検討会が縮小・中止となりました。しかし、徐々に流行状況を判断しながら、感染防止対策を十分行い、再開が試みられております。当センターも地域多職種連携・研修支援の再開に努めております。

【令和5年度の活動内容】

下記研修会等に出席

・「守山南部地区地域包括センター主催事例検討会」

第1回 中部地域包括支援センター症例（6月21日）

第3回 滋賀県立総合病院症例（10月23日）

第4回 南部地域包括支援センター症例（12月20日）

第5回 済生会守山市民病院症例（2月21日）